

特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所 (所在地：東京都渋谷区)

事業名

働くという社会との接続体験を通じて学び、自立に向けた社会的生活を身につける
生涯学習プログラムの開発と、全国普及に向けたモデル化の実践研究

研究テーマ

学校から社会への
移行期 ○

生涯の
各ライフステージ ○

主な対象

知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由

事業の趣旨・目的

“晴れの舞台で働く”という体験を通じて、社会生活に必要なことを楽しく学べる場を提供。この機会を通じて、障害当事者の能動的な外出・就労・を通じた学びの意欲を生み出し、1人でも多くの障害者の方の社会参加を実現していく。まずは地域単位で“共生社会”を実現し、モデルケースを創り上げながら、全国へと拡大展開していくことを目的とする。

事業実施体制・連携先

<連携協議会構成員> 川崎市 健康福祉局 障害者雇用・就労推進課、公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)、株式会社 川崎フロンターレ、株式会社 DeNA川崎ブレイブサンダース、株式会社 ゼネラルパートナーズ、特定非営利活動法人 日本セルフセンター、株式会社 LITALICO、社会福祉法人 県央福祉会、社会福祉法人 電機神奈川福祉センター、社会福祉法人 青い鳥 ※**連携協議会は上記メンバーでオンラインにて3回開催した**

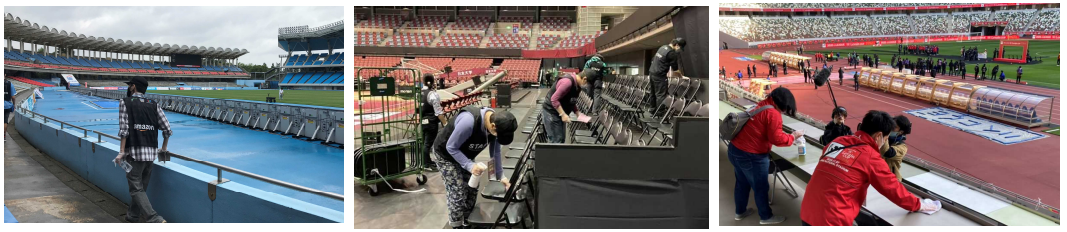
学習プログラムの内容

- 神奈川県川崎市において、行政・企業・団体・スポーツチーム・福祉事業所と連携し、スポーツ・映画・音楽などのイベントの場で、障害当事者の学習の場を創出。
- Jリーグ・Bリーグの試合会場や、コンサート会場、映画館などの、ワクワクするような“晴れの舞台”において、就労を体験する
- コロナウィルス感染拡大、緊急事態宣言の影響を受け9月から実施
- 清掃・消毒・配布などの作業を通じて、運営スタッフや一般のお客様などの不特定多数の他者と接し、コミュニケーションをとっていく
- 業務内容は、スタジアム・施設・会場の消毒・清掃作業、装飾物のセッティング、配布物のセッティング・配布など

研究の成果と課題

- コロナ禍の対策として、川崎市・連携先・福祉事業所と協議しながら**プログラム独自の「コロナ対策ガイドライン・マニュアル」を作成**
- 学習プログラムは**年間23企画実施し、17事業所から67名の障害当事者が参加** (知的・発達・精神・肢体不自由・ひきこもり)
- **成果報告会はオンラインで生配信し300名以上が視聴した。**
- **Jリーグとのコラボレーションで、新国立競技場でプログラムを実施**
- 参加者と参加事業所へのアンケート調査から、当プログラムは**参加者に「気づき」「考える」機会となっており、能動的な学びや社会参加に向けた意識の変化に結びついていることがわかった**
- **コロナ禍で安全・安心な環境で実施していくことが引き続きの課題**

その他研究の詳細など



左から、Jリーグ 川崎フロンターレ (等々力陸上競技場)、Bリーグ 川崎ブレイブサンダース (とどろきアリーナ)、Jリーグ ヴァンフォーレ甲府 (新国立競技場) での実施の様子

日々の活動の様子 (Facebookページ)



成果報告会「障害のある人の働き方、未来のカタチ」



TBS TV Nスタ 「国立競技場でJリーグが「共生社会づくりプロジェクト」開催」

